

第57回原子力委員会臨時会議議事録（案）

1. 日 時 1998年10月16日（金）10：30～11：25

2. 場 所 委員会会議室

3. 出席者 藤家委員長代理、遠藤委員、依田委員、木元委員
（事務局等）科学技術庁

今村長官官房審議官

原子力局

政策課 坂田課長

原子力調査室 森本室長、板倉、村上、池亀

核融合開発室 中村室長、鈴木

国際協力・保障措置課 古西、花木

廃棄物政策課 千原、山田

日本原子力研究所 佐竹理事

京都大学 東教授

吉備専門委員

4. 議 題

- （1）第97回OECD/NEA運営委員会報告について
- （2）ITERに関する米国の動向と我が国の今後の対応について
- （3）原子力バックエンド対策専門部会報告について
- （4）その他

5. 配布資料

資料1 報告（第97回OECD/NEA運営委員会）（案）

資料2 ITERに関する米国の動向と我が国の今後の対応について

資料3-1 現行の政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物処分の基本的考え方について

資料3-2 「現行の政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物処分の基本的考え方について（案）」（平成10年5月28日、原子力バックエンド対策専門部会）に対するご意見と回答

資料3-3 「現行の政令濃度上限値を超える低レベル放射性廃棄物処分の基本的考え方について（案）」（平成10年5月28日、原子力バックエンド対策専門部会）に対する意見（寄せられたご意見をそのまま複写したもの）

資料3 第56回原子力委員会定例会議議事録（案）

配布資料 第35回「原子力の日」関連行事・広報の実施について

配布資料 第35回「原子力の日」関連行事・広報

6. 審議事項

(1) 第97回OECD/NEA運営委員会報告について

標記の件について、日本原子力研究所佐竹理事より資料1に基づき説明があった。これに対し、

- ・NEAとIAEAの業務には重複している部分がある。NEAはIAEAとの差異化を図るため今後特色のある戦略計画を考えていくことが必要。等の質疑応答及び委員の意見があった。

(2) ITERに関する米国の動向と我が国の今後の対応について

標記の件について、事務局より資料2に基づき説明があった。これに対し、

- ・米国の状況については大変残念。また、EUは一枚岩ではないので、ITERに対する各国の状況を調べた方がいい。

(核融合室)EUの状況をよく把握して対応したい。

- ・本件の対応において大事なことは、「覆水盆に返らず」「拙速は避ける」の二点。日本の考え方をしっかり固めて対応することが重要。

等の質疑応答及び委員の意見があった。

(3) 原子力バックエンド対策専門部会報告について

標記の件について、低レベル放射性廃棄物分科会主査の京都大学東教授より資料3-1、資料3-2及び資料3-3に基づき説明があった。これに対し、

- ・原子力バックエンド対策専門部会において、活発な意見が交わされてきた。
- ・廃棄物については、種類や発生量に関して国民の理解促進が必要。
- ・日本では、廃棄物は発生者責任になっており、発生施設の種類毎に対応しているが、共同基地的な考え方の導入が必要。
- ・同じ廃棄物処分場でも、深さに応じて低レベル放射性廃棄物、高レベル放射性廃棄物を処分する場所を分けたいのではないかな。

等の質疑応答及び委員の意見があり、委員会としての本報告に対する今後の対応を考えていくこととなった。

(4) 議事録の確認

事務局作成の資料4第56回原子力委員会定例会議議事録(案)が了承された。

(5) 第35回「原子力の日」関連行事・広報の実施について、事務局より配布資料に基づき説明があった。